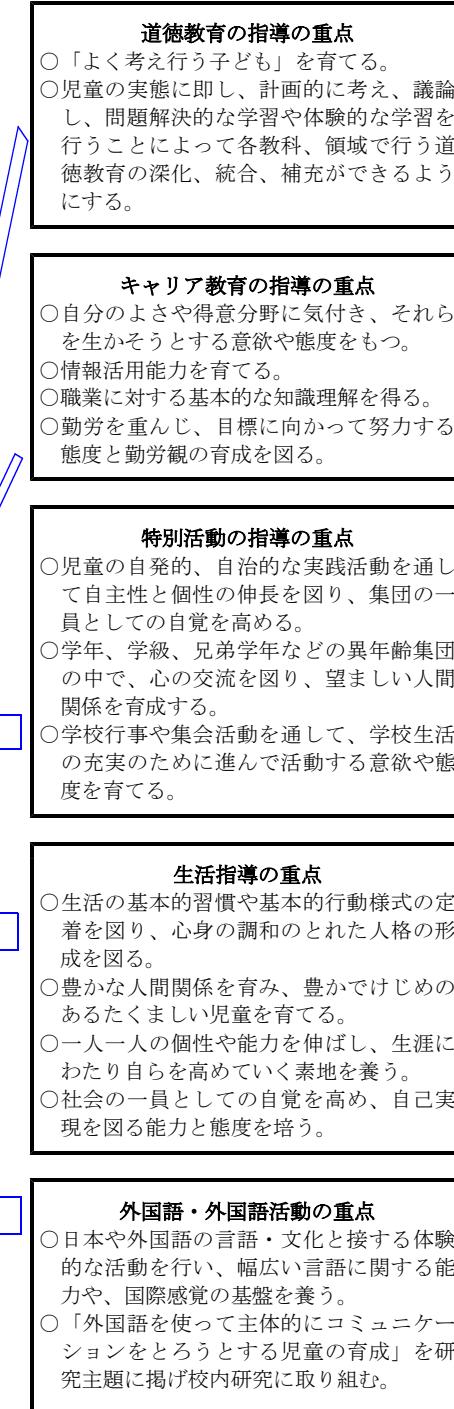
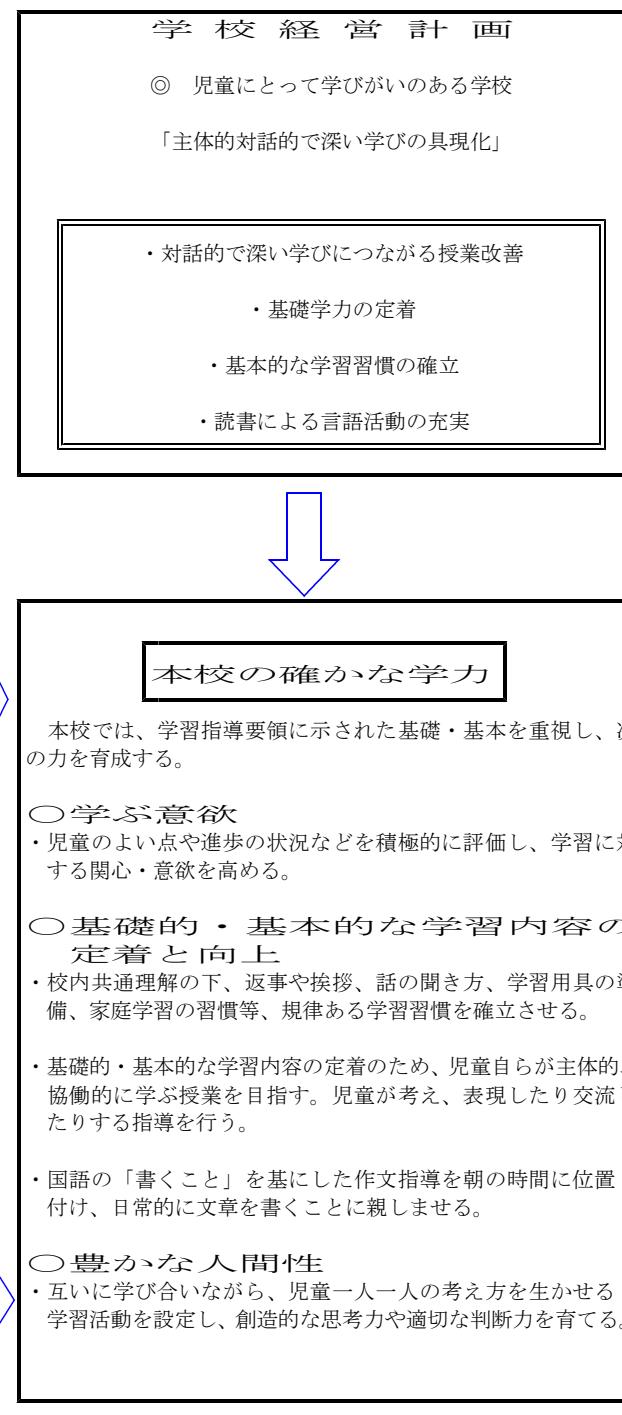
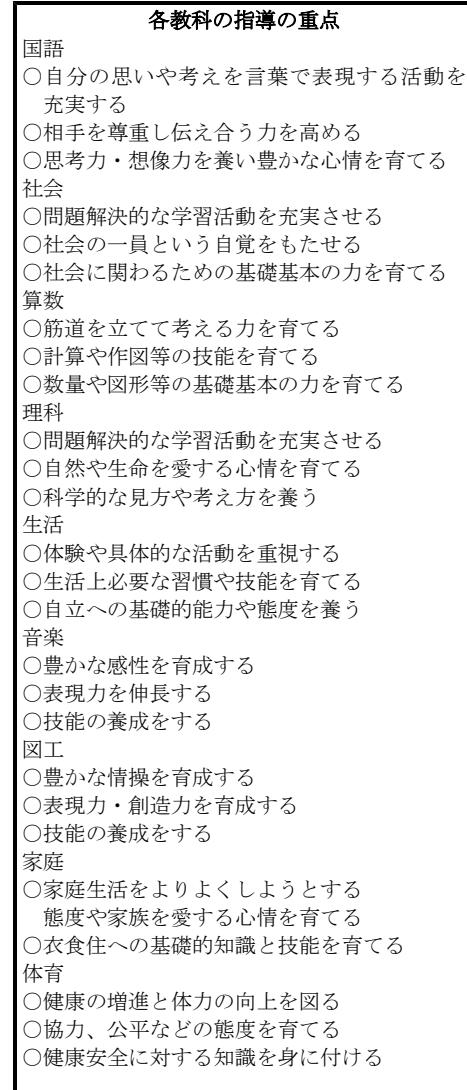
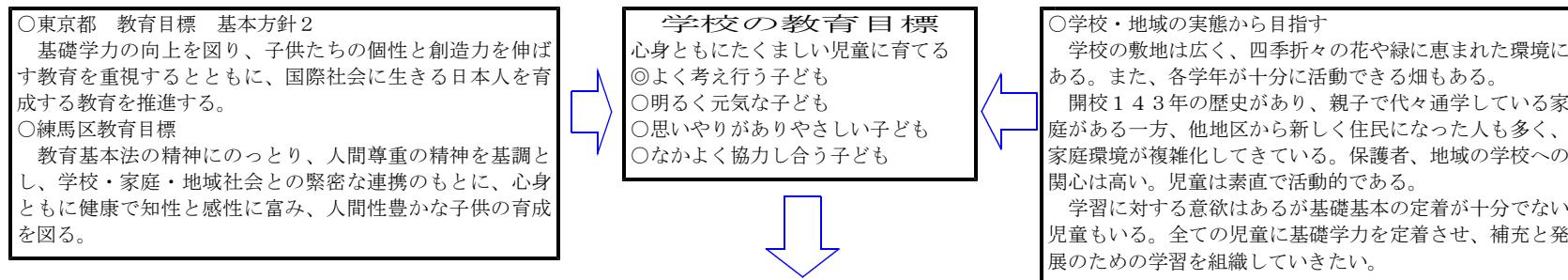


## 学力向上を図るための全体計画



## 本校の授業改善にむけた視点

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域との連携の工夫	小中一貫教育の視点
○学力調査の結果や授業による評価を分析し、各学年・各教科ごとに指導の重点を設定し、指導法の改善工夫に向けた具体的な取り組みを実践する。 ○体験的な学習や問題解決的な学習を重視する。 ○基礎的基本的な内容の確実な定着と向上を図る。	○少人数学習を取り入れ、課題別・習熟度別に応じた工夫した学習を行う。 ○積極的に栽培活動などの自然体験や国際理解教育の活動を取り入れ、探求心を大切にした学習を行う。 ○「書くこと」の日常化の一つとして、毎週金曜日の朝の時間に「書きたいむ」を実施し、基礎力の向上と意欲の向上を図る。	○「総合的な学習の時間の充実」を目指し研究を進める。3年生から6年生年分科会の4分科会を作り、研究授業を行い、確かな指導法を身に付けていく。 ○先進実践校や区内のモデル校に学ぶ。 ○担任は授業を2回以上公開し、授業力を向上させる。 ○毎月1回以上、校内の教員同士が指導方法等を学び合う。	○学力調査の結果を全校で分析し、各学年の傾向とも照らし合わせて全体の見直しをする。 ○各学年で、各教科の目標に準拠した評価を計画的に行っていく。 ○学力調査の結果の分析や評価したことを学校ホームページに載せ、外部からの意見もいただけるようにする。	○学校公開日等に保護者・外部の方たちのアンケートを実施する。これらの評価を授業改善、学校経営に生かしていく。 ○地域の方々と積極的に交流を図るように努力する。(生きる力を育む活動) ○学校評議員の評価を重要な項目として生かしていく。	○校區別協議会において各学校の生活面・学習面の状況を把握とともに、課題改善カリキュラムを作成し、活用する。また、学習規律や問題解決学習等の学び方において、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を検討していく。 ○小中一貫教育実践校として、中学校での体験授業を計画・実施する。